



市民のひのえうまに

吉原市長 齊藤滋与史

ひのえうま(丙午)といえば、ことしは私のあたり年。この年に生まれた「女性」は、気性が激しく、亭主をくい殺すという迷信があるようですが、このことをきくたびに、意外な感じがするのです。私たちがこんな迷信を、さも真実のようにいっているうちに同じ人間が、ランデブー衛星だの、宇宙の遊泳だのといっているのが現実であり、現代の社会だと思えます。私の市長職もことが二年目。私もみなさんと同じように「ケツカイ夢・抱負」はいつばいばい。懸案の諸施設、住宅、道路、水問題など、早期に解決してまいりたいと思っています。

ひのえうまが「盛んなる陽気」の代名詞ならば、私はあえて市民の「ひのえうま」にならせていただく覚悟です。

市民みなさまのご多幸を心からお祈り申しあげ、年頭のご挨拶といたします。

公害問題と真剣に取組む

山岡壯太郎

現在、工業都市として発展していますが、これからは交通が便利で、水が豊富(?)という好条件のために、ますます発展していく



でしよう。そこで、住み良い町をつくるには以上努力が必要になります。例えば公害の問題です。工場ができる前から公害を心配しているという人もありませんが、起つてからは遅すぎます。今から防止に努めます。それから、発展すれば人口が増え、また工場のために土地が少なくなり、そのために住みやすくなるのは、発展しない方がましです。

夢

原長になったら

は、こんな...
せんか...
社長だ...
のよう...
当紙で...
題し、1...
(はたち)の...
てみた。

みんなが安心して住めるように公営住宅や公営分譲地をいままら準備し、公園や緑地も確保します。

その他、現在当り前の事、当り前のままであるように、みんなで努力していきたいと思えます。代表を誰か選ばれるか、立場は違つてもみんなで協力してつとめようというつもりです。(鈴木町一・会社員)

身体障害者のための設備を

木俣 照子



先日忙しの仕事を片づけ暗くなつた道を駅に向つて歩いていたら、前から来た

「ぼくが市長になつたら」ということについて、現実から出発してぼく自身を考えを卒直にのべてみます。現在、県・吉原・富士両市がとも力を注いでいるものに、田子の浦港建設と富士川工業用水(これは完成したが)があります。この二つの事業は、富士・吉原地帯の農工業全体の振興が目的とされています。しかし実際にその施設を利用しているのは大資本で、田子の浦港は旭化成、本州、旭化成などが三千万級の船で鉄道よりも安く原料製品を運搬できる計画したもので、工業用水も大きな製紙会社に利用させたい。その水路は旭化成の工場に導かれていきます。このように大資本のため、市の費用を投入することになります。



勤労者本位の行政施策を

中村 博行

市内の道路は狭い。そこで第一期には、田子の浦港を中心に、五十道路を新設する。田子の浦港から市内、そして大淵・勢子辻に



そして第三期。健全な体育、リクリエーション向上をめざし、大淵・勢子辻間にスポーツセンター、遊園地をつくる。また生活文化館などの文化施設を市内に。ここには日常の生活必需品もすべてそろっている住宅は市内高台に。これで私の仕事は全て終了。

設(生活保障など)の拡充改善する。こうしたいことを



名馬鬼鹿毛物語

吉原地方史研究会会長 鈴木富男

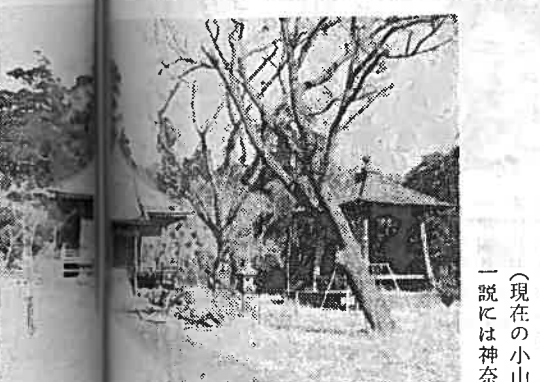
物語り

昭和四十一年はウマ年です。馬といえはみなさん原田妙善寺観音堂(流川の観音さん)に伝えられている名馬「鬼鹿毛」(おにかげ)の物語をご存じですか。この妙善寺は臨済宗清見寺の末寺で、その寺歴は非常に古く、天平年間僧師行基が聖武天皇の勅を奉じ、全国に八十一カ所の堂塔を建てたときの一寺といわれています。四間四方の観音堂に安置されている本尊は、千手観音で、行基の作だといわれています。お堂の中央本尊を祀る厨子の真下に常陸国真壁郡小栗村(現在の茨城県真壁町)小栗城主、小栗判官満重の愛馬「鬼鹿毛」の骨を埋めてあると伝えられています。そこでこの名馬「鬼鹿毛」にまつわる話を、鈴木富男図書館長に聞いてみました。



小栗判官満重、照天姫(てるてるひめ)鬼鹿毛の物語が伝えられている所は五指にあまるが、その物語にはそれぞれ多少の相違がある。わたしは原田妙善寺に残されている勅化帳をもとにこの物語をつづつてみた。

小栗判官満重は、鎌倉管領 足利持氏に對して「謀叛を企てている」と何かに言われ、荒馬をもつていた。この馬にはだれも恐れずかかっていた。それが、全快とまではいえないほどだった。それが、全快とまではいえないほどだった。それが、全快とまではいえないほどだった。



名馬「鬼鹿毛」が祀られている妙善寺観音堂

とてつて刃で「鬼鹿毛」